

# 滋賀文教短期大学の活動

しがのふるさと支え合いプロジェクト事例報告

vol.3

## 豊かな自然に囲まれた滋賀文教短期大学

滋賀文教短期大学は、昭和27年岐阜県郡上八幡町に、県内で初めての私立短期大学「岐阜県濃北短期大学」として開学。その後、昭和50年に滋賀県長浜市の誘致により同市に移転し、名称を「滋賀文教短期大学」と変更し現在に至っている。豊かな自然に囲まれており、国文学科、子ども学科の2学科からなる。生徒数は100人ほどだ。少人数教育なので、生徒と教師の信頼度が高く、アットホームな雰囲気を感じる。



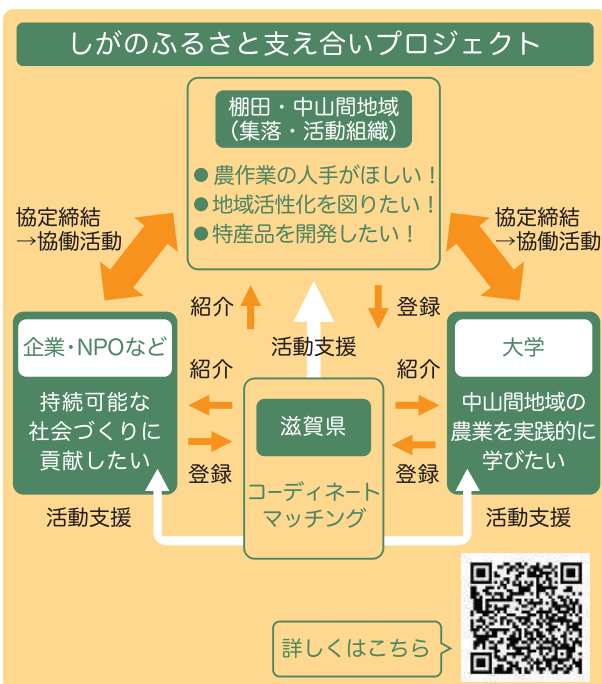
「滋賀文教短期大学」  
国文学科 講師 留学生支援室  
池田 大輔 氏

## 2年という短い大学生活で 社会との繋がりを

学校生活は、2年間。短い期間の中で、専門知識を学び就職活動もしなくてはならない。学生のうちに少しでも社会との繋がりを知って欲しいという思いから、活動できる地域を探していたところ、キャンパスより車で1時間ほどの市内の池原地区と一緒に取り組みをすることになった。今年で2年目の取り組みだ。お話を聞いた池田先生の担当する国文学科の学生は、特に、本を読むのが好き、図書館に行くのが落ち着くという学生が多く、人と接することが苦手な学生が多いそうだ。社会に出る前に、課外活動を通じて知らない世界を知って欲しいという池田先生の願いがあった。

## 若い世代から池原地区の魅力発信を

「平成30年度にしがのふるさと支え合いプロジェクトに参加し協働活動を開始しました。池原地区に伺う前に、県のサポートもあって、草刈機の使い方や、池原地区の特徴や抱えている問題・課題も教えていただきました。特に草刈機は初めてでしたので、最初は怖がっていた学生もいましたが、どのように扱えばいいのかを事前にしっかりと教えていただきました。実際にやってみると、目に見える結果が得られて夢中になったそうです。また、課題だけではなく池原地区のいいところも実際に歩いてみて感じたり、自然の豊かさに学生みんなが感動してました。また、お昼にいただく蕎麦やご飯が抜群に美味しいですね。」と嬉しそうに語ってくれた。「草刈りだけでなく、池原地区の方々には蕎麦打ち体験、意見交流会などをさせていただけました。地域の歴史も教えていただいたり、毎回貴重な体験をさせてもらっています。でも、まだ『お客さん』という印象を受けるので、早く溶け込んでいきたい。今後は、文教短大から池原地区の魅力のアピールできるようにしたいですね。ワクワクしているのがこちらまで伝わってきて、池原地区のこれからの未来が楽しみになりました。」







いけはら

# 池原の紹介



一面の蕎麦畑広がる池原地区

紫陽花とダルマ寺として有名な全長寺がある長浜市の池原地区。そこから山側に田んぼと集落が広がっている。40世帯、人口110人と少ない集落ではあるが、その中で小・中学生が12人もいたり、高齢者も田んぼや野菜づくりが趣味という方も多くいたり活気がある印象を受けた。



「池原自治会」  
自治会長 岩出 昌治 氏

池原の自然は地域全員で守る

「少子高齢化、荒地が増えていた中で、なんとかせんとあかんというところから池原の自然と環境を守る会を結成しました。」池原の自然と環境を守る会の岩出さん、宮本さん、和田さん、國友さんからお話を聞いた。  
平成19年より「多世代が共に築き、共に育む池原の自然と環境」をキャッチフレーズに「池原の自然と環境をまもる会」が発足した。  
農地が荒れるのは農業者の問題だけではなく、地域で守っていかないといけない。ここもから高齢者まで全ての住民が、自分ごととして捉え、地域を守っていく取り組みを行っている。  
その取り組みは、空き家改修や棚田ボランティアなど多岐にわたる。活動から11年。現在は、年に1、2回広報誌を出して地域の方に取り組みと地域の魅力を知ってもらっている。

蕎麦から広がる村づくり

景観作物の作付けとして蕎麦を植えていた。空き家を地域資源として活用できないかという雑談の中で、そば道場をしてみようかと面白い意見が出たことがきっかけで、スタートした「池原そば道場」。蕎麦を植え始めた当初は、そば道場を構えるなんて誰も想像していなかった。今では地域の多世代が交流する取り組み、そして地域外の方が集まる場所、池原地区の活力源として成長した。そば道場は、男性7人女性5人から構成されるメンバーで、蕎麦の生産から蕎麦打ち、そば道場の運営まで一貫して行っている。そば道場は山裾に位置するが、全長寺とも連携し合って年々来訪者も増え集落全体が活気付いてきている。また、それに比例して蕎麦の作付け面積は増え、現在2haにもなっている。そんな池原地区が一番の課題と感じているのは、棚田の草刈り。不在地主の土地についても池原の自然と環境をまもる会で草刈りをしており、年に2回、7月と9月に外部からのボランティアを募っている。この課題に一緒に取り組んでくれる団体を探していたところ『しがのふるさと支え合いプロジェクト』の制度を知り、「滋賀文教短期大学」との連携が始まった。今では、文教短期大の学生たちが率先して草刈りを手伝ってくれているそうだ。それだけではなく、「初めてやったが達成感があったり気持ちいい」「地域の皆さんが暖かい」など嬉しい言葉があるようで、この取り組みに双方ともにやりがいを感じていた。「若い子たちがきてくれることで活力をもらえる。学生さんから色々提案いただいたので、これから少しでも実現できるといいなあ。草刈りしてくれた土地を今後一緒に活かしていきたい。」と期待を語ってくれた。



お問い合わせ先

滋賀県農政水産部農村振興課 地域資源活用推進室

〒520-8577 滋賀県大津市京町4丁目1番1号  
TEL: 077-528-3963

詳しくはこちら

